

この度はJTC工具を御買上頂きまして、誠に有難うございます。
本製品をより安全・適切にお使いいただくために この取扱い説明書をお読み下さい。
取扱い説明及び表示の注意事項や使用方法は十分に理解した上で正しくお使い下さい。
この取扱説明書はお手元に大切に保管ください。

●はじめに

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を読み、注意事項、使用方法を十分にご理解頂いた上で正しくご使用下さい。又、本製品は間違った使い方をされると、人的障害や物的障害が生じる他重大な事故に発展する恐れがあります。





注意

この度は、オイルチェンジャーエア一式をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。

このオイルチェンジャーエア一式は短時間かつ効果的にオイル交換をする事を目的に開発されたプロフェッショナル用の装置です。操作や機能を正しくご理解いただくため取扱説明書を必ずお読みになり、重要な警告・注意事項及び取扱方法について十分に理解された上で正しくご使用ください。

これは、身体上に重大な障害を及ぼしたり、火災・爆発などの災害を未然に防止する上でも重要です。また、取扱説明書や装置に貼付してあるラベルに記載されている以外の使用をされた場合や、必要なメンテナンスを行われなかった場合はそれが原因で故障等を起こしても保証の対象となりませんので十分にご注意ください。

この取扱説明書は、必要に応じてすぐに取り出して参照できる場所に大切に保管してください。

ご使用前に製品の破損や欠品がないことを確認してください。

万一、破損や欠品がございましたら、ご面倒でも購入先、あるいは弊社までご連絡くださるようお願いいたします。

ご使用になる前に

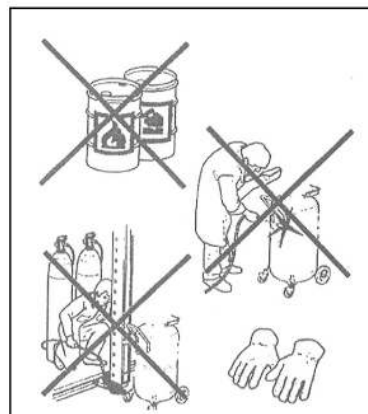
労働災害を発生させずに安全な作業をするため、次の注意事項及び取扱方法をよく理解して必ずお守りください。

身体上の危険

1. 作業中は、オイルが体に付着することがあります。
常に適切な服装で、防護眼鏡・マスク及び手袋などの保護具を着用し、事故を防止してください。
2. オイルの圧送経路上で液漏れが発生した場合、直ちに、供給空気を遮断し、作動を止めてください。
3. 換気の不十分な狭い場所での作業は、火災の危険性がありますので、必ず換気の良い場所で使用してください。
4. 作業中、身体に異常を感じたら直ちに使用をやめ、医師による診断及び治療を受けてください。

爆発や火災の危険

1. エンジンオイル、ミッションオイル、ATF オイル等以外の吸入には使用しないでください。
2. ガソリン、シンナー、灯油等の引火性の高い物は絶対に使用しないでください。
3. 火気のある場所、またはスパークが発生する可能性がある場所は、非常に危険ですから近くでは絶対に使用しないでください。
 - タバコなどの裸火
 - ストープ・ヒーターなどの電化製品
 - ドリル・サンダー及びグラインダー等の工具類
 - 本体の溶接作業、溶接作業の近くや高温になる場所に保管しないでください。
タンクが破裂する可能性があります。
4. 換気の不十分な狭い場所での作業は、飛散したオイルなどに引火する可能性があり、非常に危険ですから、換気の良い場所で使用してください。



装置の誤使用による危険

1. 指定使用圧力の範囲外で使用しないでください。また、供給空気中に異物や水分が入っている場合、フィルター等を装着して装置に入るのを防止してください。装置の作動不良・故障・破損などの可能性があり、非常に危険です。
2. 装置の作動中は絶対にタンクの蓋、排出コックを開けないでください。吸引したオイルが装置の外に噴出し、目など入る可能性があります、非常に危険です。
3. オイル吸い上げ以外の目的で使用しないでください。
4. 装置の改造及び純正以外の部品の使用はしないでください。また、部品の破損・摩擦その他不具合が認められた場合は、直ちに部品交換をしてください。そのまま装置を使用し続けると機能が十分に発揮されないだけでなく、部品や装置の破損がさらに進み危険な可能性があります。
5. 転倒や作動中の揺れを防止するため、装置は水平な場所に安定した状態で設置してください。装置に接続されたエアホースは絶対に、引っ張ったり、重量物を載せたり等、破損の原因を避けてください。
6. 装置の修理・保守を行う場合は、タンク内のオイルが完全に排出されている事を確認し、供給空気を遮断してから行ってください。
7. タンク内の廃油は早めに排出してください。
タンクに溜めすぎると火災の危険やオーバーフローの原因となります。

1. 仕様

型 式 / 名 称	TRG20901 オイルキャッチャー&オイルチェンジャー
駆 動 源	圧縮空気
使 用 空 気 圧 力	0 MPa-0.1 MPa (車両よりオイルを抜く時の空気圧力)
排 出 空 気 圧 力	0.05MPa-0.25MPa (タンクよりオイルを排出する空気圧力)
上 部 タ ン ク 容 量	9L
タ ン ク 容 量	70L
空 気 接 続 金 具	Rc 1/4,1/4" インチ (メネジ)
寸 法 及 び 質 量	全幅 400mm×全奥行 470mm×全高 1575mm
真 空 範 囲	0.5-0.76atm
最 大 使 用 可 能 温 度	70℃以下 (オイル温度)

組み立て

1、付属のトレーとハンドルを組み付けてタンク本体に差し込み、蝶ネジを締めてしっかりと固定して下さい。

ハンドル

トレー

蝶ネジ

2

2、クリアタンクを本体のタンクに固定します(ネジ部にシール剤を塗布して接続ください)

受け皿

3. タンクのハンドルとボルトを緩めて受け皿用パイプを伸ばして下さい。受け皿とパイプを接続させて下さい。

受け皿

受け皿用パイプ

ボルト

ハンドル

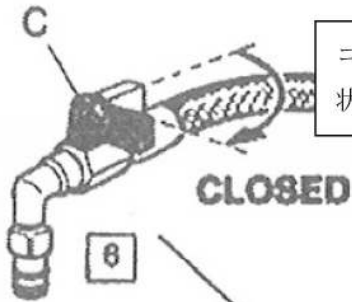
接続ホース

切り替えバルブ



各コックを閉じてください。

オイル吸い上げホース



コックを横にして閉じた状態にしてください

クリアタンク部



コックが開いた状態



廃油排出エア注入口

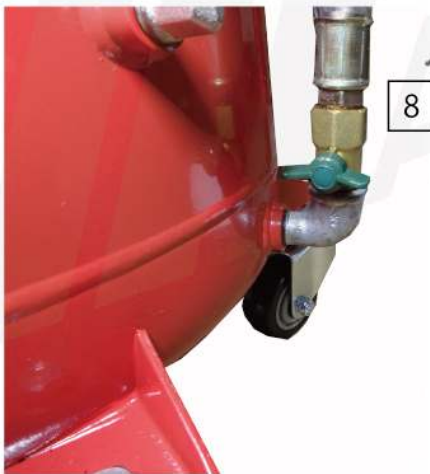


7

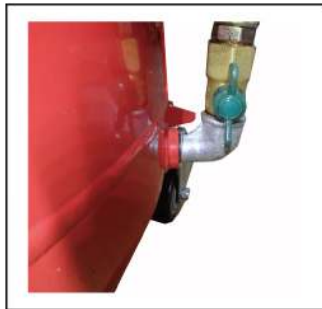
コックを横にして閉じた状態にしてください



コックを横にして閉じた状態



廃油排出ホース



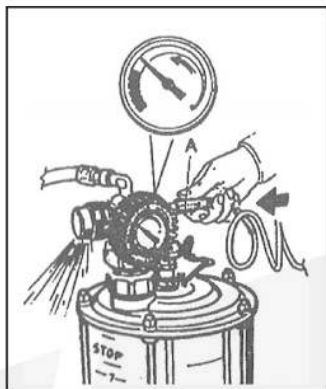
コックが開いた状態



コックをホースに対して横に向け閉じた状態

組み立て完了後、各コックが閉じてある事を確認してエアーを接続してエアー漏れが無いか確認をしてください。

1. Aのカプラーにエアーコンプレッサーからのエアーを接続して、Bのコックをメーターの上昇を確認しながらゆっくりと開いてください。



エアーコンプレッサーからのエアーを調節してください。

使用エアー圧は必ず
0~0.1 MPaまでの圧力で

(0 - 1kgf/cm²)で御使用ください
圧力が高いとオイルチェンジャーが破損します

メーターの0.08 MPaまでの圧力で御使用ください。

0.08 MPa以上に上昇する前にBのコックを閉じてエアーの供給を中止してください。



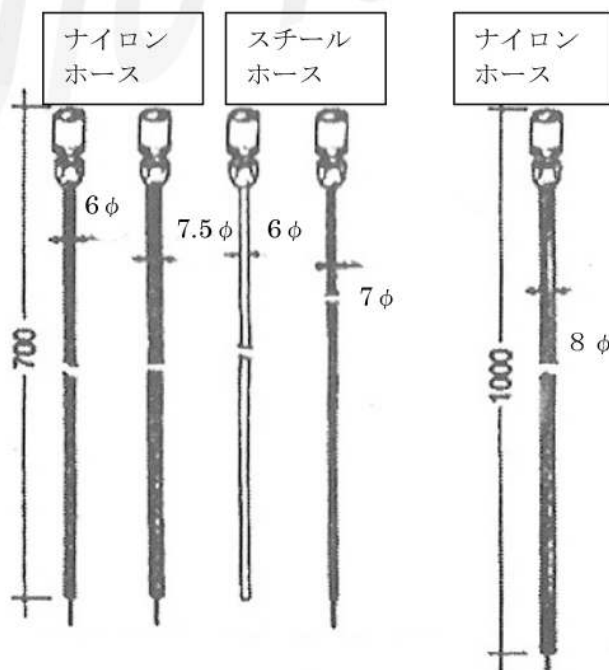
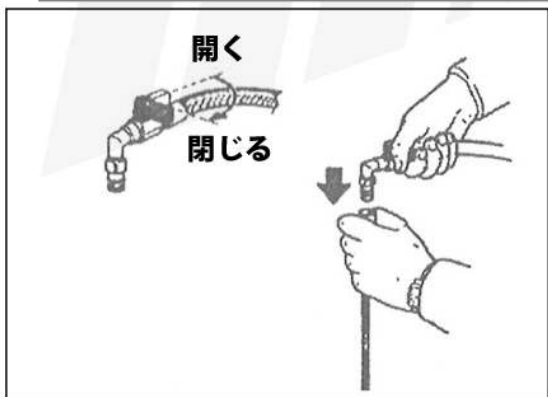
メーターは右から左へ
上昇します

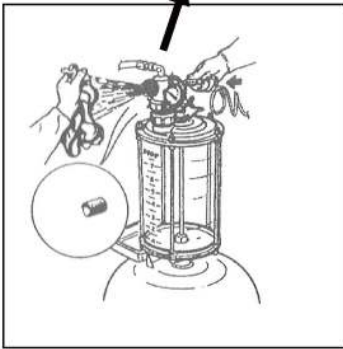
2. メーターの針が0.08 MPaまで上昇したら、エアーの供給を止めてください。メーターの針がスムーズに上昇したかエアーが漏れてないか確認してください。

※メーターがスムーズに上昇しない場合は各コックが閉じてるか確認してください。

各接続部分が緩んでいるか、シール剤を塗布して無い為エアーが漏れている可能性があるのを確認してください

吸入用ホースアダプター





エア－排出口の清掃方法

オーバーフローした時やエア－排出口が詰まった場合
吸引力の低下の原因となりますので定期的に清掃してください。

1. エア－排出口のカバーを取り外してウエス等で排出口に軽く被せてエア－を注入して内部の詰まりを解消させてください



注意

クリアタンク内にオイルが溜まった状態で
本体を傾けたり移動はしないでください
オイルが漏れる原因となります。

3、

クリアタンク内に溜まった
オイルはクリアタンク上部
のコックと下部のコックを
開いて)
本体タンク内に排出してく
ださい。



タンク内のオイルの排出方法



本体タンク横にタンク内のオイル
残量ゲージがあります。

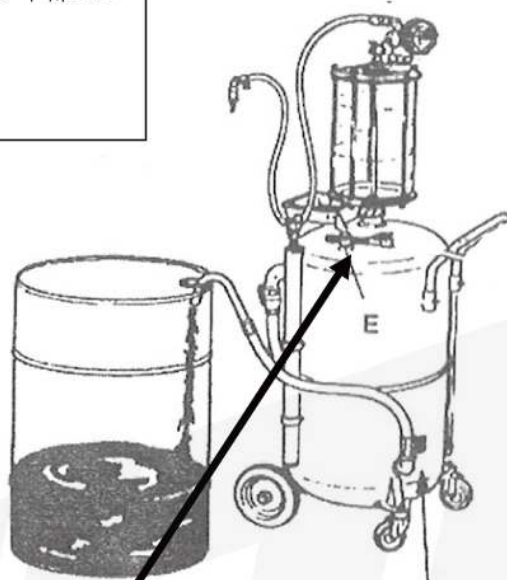
一杯になるまでに排出
してください。

タンク一杯にオイルを溜めると
クリアタンクにオイルが逆流して
オイル漏れの原因となります。
廃油を溜めないで早めに排出する
ようにしてください。

1、

本体下部に接続してある廃油排出ホースの先端部分を廃油を入れるタンク等に差込んでください。

オイル吸入ホースとクリアタンク下部のコックを閉じてください。



E

廃油排出用のエア注入口



3、Eの廃油排出用のエア注入口に
エアコンプレッサーからのエアを
繋いでください。

使用エア圧

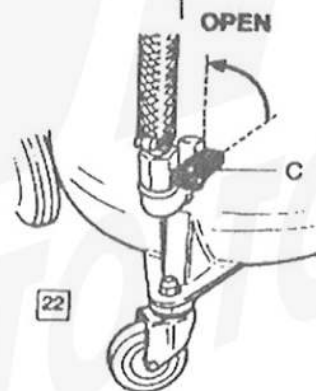
0.05 MPa ~ 0.25 MPa

矢印方向にコックを少しずつ開くと
廃油が排出されます。

エア圧が高いと廃油が飛び散る可能性
があります。

タンク破損の原因にもなるので
エア圧には注意してください。

排出が終了したらエアを外して
コックを閉じてください。



2、 廃油排出ホースの
コックを開いて
ください。

